

小学校外国語教育カリキュラム研究会

グループ員：政処 布沙 (池尻小学校) 池田 真千子 (伊丹小学校)
吉廣 郁美 (桜台小学校) 常見 雅代 (鴻池小学校)
高木 順子 (南小学校) 檜崎 美穂 (稲野小学校)
辻森 亮太郎 (笹原小学校) 西本 大和 (松崎中学校)
担当指導主事：村上 大介

キーワード：外国語科 教科化 カリキュラム 小中連携

1 研究テーマ

「令和2年度(2020年度)から始まる小学校外国語科の年間カリキュラムおよび評価についての研究」

2 研究内容

(1) 来年度から使用する教科書と年間カリキュラムを確認する。

今年度まで使用していた「We Can!」(文部科学省)と、新年度から使用する「Junior Sunshine」(開隆堂)を見比べ、学習の積み残しが起こりうる部分や、重複しうる部分を洗い出し、確認した。



(2) (1)をふまえた上で、伊丹市としての年間カリキュラムの試案

教科書が変わることで、いくつかの問題点が発生していることに気づいた。改善のために、開隆堂ホームページに出ている年間カリキュラム案の順番を入れ替えたり書き加えたりした。具体的には以下の部分を変更した。

問題点	変更後
“What time do you get up?”の単元 “Where do you want to go?”の単元 新教科書では6年生単元になっているが、 新6年生は、5年生時に学習済み。	中学校以降にも頻出する単語などが多くふくまれる単元であるため、重複することにはなるが、新6年生でもカリキュラム案通り学習し、定着を図る。
“I love my town.”の単元 新教科書では5年生単元になっているが、 新6年生は未習である。	新6年生の年間カリキュラム(時数)を一部変更し、積み残しのないようにする。

(3) 教科化に準ずる評価の方法や観点について協議

これまでの文章記述とは異なり、3段階評価をしなければいけないのでその方法や観点を話し合った。また、文部科学省 直山 木綿子 視学官の講演資料をもとに、新しい評価の方法や観点について確認し合った。

結論として以下のようなものが出た。

- ・評価のポイントは、開隆堂から出ている「ルーブリック」を参考にする。
- ・「単元の全時間」に「全領域・全観点」において記録に残す評価を行う必要はない。
- ・そのためには、教師が計画的に評価のポイントを決めておくことが必要。
- ・新年度以降に担当者会や各校で考案してもらう必要がある。

3 成果と課題

(1) 成果

- ① 新しい教科書の内容を知り、見通しをもって、教材研究を行うことができた。
- ② グループ員同士で情報交換することができ、各校で検討する内容を得ることができた。
- ③ 年間カリキュラムについては、外国語活動担当者会で指導主事により提案してもらうこと

ができた。

(2) 課題

主に評価については、現段階で決定できることには限りがあった。新年度以降に担当者会や各校で考案してもらい、その際に学校による差が生まれないようにする工夫が必要である。